

講義名	ファッション文化論			授業形態	
担当教員	道前 美佐緒	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

### 主題と概要

「ファッション」というと、服飾の型や流行を思い浮かべるでしょう。しかし、「ファッション」とは、ある時代、ある地域における人々の服装や行動様式などの「流行」です。そこで、本講義では、服装や型に限らず、居住空間や食生活、祭りや歌、旅行などにも一時的な流行や風俗を対象に議論します。そのようなファッションが生み出される社会背景や民衆の意識を読み解くとともに、社会を創造するファッションの力について考えます。

本講義では、普通の人々が暮らす日々の暮らしの中に生じる「流行」としての「ファッション」を対象とし、具体例を示して講義を行います。

八口ウインなどの祭りやパワースポットブーム、ファッションブランドや様々な美容法、流行語や流行歌といった様々な「ファッション」が生み出されてきました。その目的は、人間の生命を守る、暮らしをより豊かにする、国家や新たな社会を創造する、あるいは、既存社会に抗うなど、様々です。

また、その過程は、一人の発明者が周囲の共感を集め、広めたもの、大きな権威・権力の無意識的・意識的な文化介入によって生み出されたもの、外来文化を受動的あるいは、能動的に受け、グローバル化したものなど、多様です。

15回の講義の前半では、歴史的な衣食住や儀礼をとおして、「人はなぜ装うのか」について考察するとともに、現代の「ファッション」に通底する人々の意識を検証していきます。次に、日本各地に伝承されてきた祭りや人生儀礼の様式の変遷や、新しい産業が生み出される社会背景から、日本人の人生観や家族観の変化を読み解きます。そのためには、西洋文化の影響やグローバル化する社会への理解が必要です。

近代以降、西洋の服飾文化の流入と、それに伴う日本人の身体改造や居住空間や都市の変貌などへ、視野を広げていきます。

15回の講義を通して、ファッションのもつ呪術性、メッセージ性、政治性、流動性に着目し、政治や産業が生み出すファッションと、民衆から生まれる対立的なファッションのダイナミズムについて考察していきます。皆さんの身近な「ファッション」に対する学術的アプローチをおとして、社会の動きを読み解き、新たな社会を創造する力をつけましょう。

### 到達目標

- ・本講義では、次の3点を目標とします。
- ・社会現象としての「ファッション」が生み出された歴史的背景や社会の諸相を理解できる。「ファッション」を読み解く視点を持つことができる。
- ・具体的な事例を示しながら、「ファッション」と社会や人々の意識との連関について説明ができる。

### 提出課題

キャンパスクロスをおして提出してください。

次回もしくは、次々回の授業テーマに関して、事前の情報収集した結果を報告していただきます。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内でフィードバックします。皆さんが集めた情報や事例について、授業内でのディスカッションや考察を深めていきます。

### 評価の基準

平常レポート 70 %  
 期末レポート 30 %

備考  
 授業中のリアクションペーパーや毎回の課題への取り組みは、授業への積極的な参加と同義とみなし、その内容を重視します。授業外学習課題の内容は、各自が採集、選択した事例に対する考察レポートを1回提出していただきます。

授業中の私語や飲食（水分補給やのど飴を除く）などは、周囲の人々にとって迷惑な行為を発見した場合、教室を退室していただきます。その場合、当該授業は欠席となります。

### 履修にあたっての注意・助言他

スライドと配布資料を使用して講義を行います。講義の中では、リアクションペーパーなどを利用して、受講者の皆さんから、テーマに合致する事例やそれに対する意見を募ります。また、毎回の課題として、次回の授業のテーマについて情報収集し、具体的な事例と、それについての意見を提出していただきます。授業では、皆さんが集めた事例を盛り上げつつ、そのような「ファッション」が生まれた経緯や社会背景について考察していきます。皆さんの身の回りの「ファッション」を対象とした授業となりますので、積極的に課題に取り組み、率直な意見を提示してください。

### 教科書

.なし.					
------	--	--	--	--	--

### 参考図書

.現代文化を学ぶ人のために.	井上 俊	世界思想社	2000	9784790716365

その他

### 授業計画

- 1 流行とファッション  
「ファッション文化」の研究対象を明確にし、いくつかの分析視点を提示します。
- 2 呪術とファッション  
衣食住にみる、霊魂・靈魂・神霊
- 3 節量とファッション  
紋章や民族衣装の伝統と、フォークロアファッションという流行。
- 4 儀礼とファッション  
(1) 祭りや年中行事
- 5 儀礼とファッション  
(2) 人生儀礼
- 6 言葉とファッション  
流行語・流行歌や怪談などの変遷。
- 7 華命とファッション  
西洋の華命風からチャネルまで。
- 8 アパレルとファッション  
ファッションブランドの盛衰と若者文化
- 9 制服とファッション  
セラー部からジーンズへ
- 10 美容とファッション  
化粧という呪術
- 11 身体とファッション  
改造される身体
- 12 旅とファッション  
トラベルからツーリズム、そして住まう。
- 13 異とファッション  
五感で味わうファッションの力
- 14 街とファッション  
ファッションの街 神戸
- 15 ファッションのダイナミズム  
15回の授業を振り返り、ファッションのダイナミズムについて整理します。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習課題：次回もしくは、次々回の授業テーマに関し、事例収集や資料調査 60分  
 復習課題：授業で扱った事例に対する自身の分析コメントの提出。 30分

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「ファッション＝流行」という社会現象をおとして、社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。また、課題に取り組むことをおとして、情報収集力、情報分析力、課題発見力を養い、知識を知恵に転換する、論理的思考力を身につけます。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義のテーマに対して、学生が採集した事例を皆で共有し、それに対する分析や意見交換を行います。

### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。  
 イベントプロデュース会社経営、テレビ局や広告代理店から受注した展示会や企業PR活動の企画・運営を行った。  
 (公社)日本ブライダル文化振興協会 副会長、ブライダルコーディネーター職種技能検定「指定試験機関技能検定委員」、ブライダルプロデュース会社経営、結婚式場顧問など、ブライダル業界を中心に広く企業の人材育成を担った経験を活かし、これからのブライダル業界に求められる発想力や実行力を養います。

### 備考
